

「桜の樹」ニュースレター vol 28

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2023.11



「あの頃の自分」

岡ちゃん

先日、ずっと片付けられずにいた、私物の整理をしました。まずはクローゼットの一番上の棚から段ボール箱を下ろし、きれいにホコリを取りました。前に開けたのは10年以上前で、中身をすっかり忘れていました。少しワクワクしながら開けてみると、アルバムが数冊ありました。忘れかけていた懐かしい写真ばかりでした。そこには髪の長い私がいて、今よりも痩せていました。そして何よりも若い！23歳くらいでしょうか、懐かしさとちょっぴり恥ずかしい気持ちになりましたが、思い出の写真を1人でこっそりみるのは至福の時間でした。高校卒業記念で頂いたメッセージカードもありました。書いてくれた友人達の顔と名前をほぼ思い出すことはできませんでしたが、その一言が懐かしく、高校生の自分とその時代を思い出しました。



更に思い出深い色紙を見つけました。7年間勤め結婚退職した会社の同僚と後輩から、退職の日に頂いた2枚の色紙です。そこには沢山のねぎらいの言葉がありました。後輩の書いた「お姉さんの様な存在でした」という言葉は、あの頃の私にとって最高の褒め言葉だったと思います。私の持つ知識を、出来る限り後輩に伝えたいと頑張っていた、私のありのままの姿を思い出しました。



思い出の品々と、別れを告げたこれからの自分。次に新しい思い出の写真を見た時、そこに写る私が笑顔なら、また笑顔になれる。そんなささやかな幸せを感じる日々を、生きていけたらと思っています。

今年4月カフェの際スタッフと57歳のお誕生日のお祝い。奥で微笑んでいるのはご主人。お二人の笑顔が素敵。



Photo by 山本ひろみ



Photo by ミニオン

「山本ひろみさんを偲んで」

ニャンコ先生

訃報です。岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」の主催者・山本ひろみ(57歳)・「さくらさん」が10月18日乳がんにより亡くなりました。

「さくらさん」を偲んでこの一文を書きました。また「ニャンコ先生」は「さくらさん」が何時の間にか私をそう呼ぶようになりここで使わせてもらいます。

「さくらさん」との出会いは、がん哲学外来・シャロームがオープンした令和元年5月でした。その頃の私は半年前に妻をすい臓がんで亡くし、子供がいませんので一人になり夢も希望もない、絶望感とはこの状態をいうのか、と落ち込んでいました。それを友人がシャロームに呼んでくれたのです。シャロームではカフェ終了後時間のある人はランチを近くの店で食べます。

ある時3人のお嬢さん達がケーキを食べに行く誘ってくれました。そのひとりが「さくらさん」でした。カフェでも3人はそれぞれ厳しい話を淡々と話し、冷静に自分を見ていることに感心してましたが、ケーキを食べてる時はより元気でパワフルです。



これを見て思い出した樋野先生の言葉があります。「解決できなくとも解消できる、病気であっても病人ではない、その人らしい生き方を...」まさしくこの実践です。その年の7月に「さくらさん」はがん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」を開業しました。私は12月から巣鴨カフェに行くようになり、この11月でちょうど4年になります。

スタッフとして命題はまさしく「さくらさん」が身をもって教えてくれた樋野先生の言葉を参加された方に伝えることです。

R5.10.22 この日はひろみさんのお通夜の日の朝。ご自宅のお庭。ひろみさんが大切に育てていたバラがこの日突然、一輪咲いたのだそうです。ご主人の保男さんが撮影したもの。クリームホワイトの柔らかい色に淡いピンクの縁どりがあるなんとも可愛いバラ。



Photo by 山本保男



月に一度、診察の日が来る。
血液検査をして 病巣が広がっていないか
確認する。

もう何十回目の検診だろう。もう何年になるだろう。

一旦、病巣が広がっているとわかると 慌たたく 追加の検査の予
定が入る。

結果の出る日の待合室では 窓の外を眺めながら私は小さく鼻歌を
歌う。昔、流行っていた 歌謡曲だ。

歌いながらその頃の自分で今の自分を覆い
尽くす。検査結果が告げられるまでのあい
だ、自分自身を 小さな少女の時の自分に
隠すのだ。学校帰りに咲いていた背の高い
花や自宅の脇の路地の景色、暗くなるまで何回も練習した鉄棒や夕
方の遠くのマンションの明かり。

万華鏡を覗くように 思い出の景色を重ね合わせる。



「高橋さん 52 番どうぞ」

アナウンスが聞こえると 景色と歌が消え 少女はどこかへいなくなる。

残された私の両膝にゾワッと、緊張が走る。薬の名前が変わると言う
ことは 運命の日に近づくと言うことだ。ピンチはこれまでに 2 回きた。

でも 本当のピンチは まだ来ていない。

今日の検診では いつもの黄色い薬が処方された。

袋の中には 30 粒の黄色い薬が並んでる。

毎月、これを飲み終えるまでの時間をもらって帰るのだ。

いつの日からか 私の平和な日常は 30 日づつ延長して
継ぎ足されながら進んでいるみたい。

後 30 日で何をするか。薬を飲むたびに 残りの日数を確認する。

継ぎ足し人生が始まってから 無駄な時間がなくなった。子供達の顔
をよく見る。友人たちや今日初めて出会った人の顔をよく見るよにな
った。掃除をして 本を読み 料理を作る。1 人で行動する時間にも意
味があるようで、間延びする時間は無くなった。

自分の日常ががつまらないなと思えたら 他人の人生に協力すべ
ばいいと気づき始めた。誰かの今日がうまくいくように 私の心の棚に
ある何かを持ち出して 差し出せばいい。

その人が笑顔になれば 私の時間も色鮮やかになる。ケチっけては
いけない。

目の前の誰かに必要だと思えるものを 心の物置の中から懸命に探
すのだ。たとえそれが自分にとってはほこりをかぶった思い出の品でも
回り回って良いものだったりもする。

帰り道、駐車場の車のドアを開ける時、東から走ってきた秋風が 私
の足元をすくって遠く西の空へかけ抜けた。

ちょうど季節外れのツバメが素早く目
の前を横切っていくように私の頬をかす
めて舞い上がっていくようだ。

風の向かった遠い空を見上げる。

今と今が重なり合う。

私には今がある。

心が今という永遠でいっぱいになる。



All Photo by 山本ひろみ

私がひろみさんと出会ったのは 4 年前カフェの帰りに
「今度巣鴨でカフェを開きます。手伝ってもらえませんか」「良いですよ」の軽い気持ちでお話したのが始まり
です。いくつかのエピソードをお話します。

カエルを撮ったのを見てコーワ製菓「ケロコロ写真館」
タグをつけてインスタにあげてみてね。何度か「今日の
一枚」に選ばれたことがありました。そんな時は何時も
良かったねと喜んでくれました。

街でスリムな女性が、ひろみさんに似ているな。前に
まわってみたらやっぱりご本人でした。地下鉄のホーム
で前からトコトコと。何時もの笑顔で。3 度目もまた偶然
に会いたいね。でもそんなこともなくなってしまったんだ
なあ。

「昨日救急車で運ばれて東京
通信病院にお支払いを。飯田橋
駅にいます。神楽坂詳しいです
よね。道を教えて下さい」

「ではその写真を何枚か撮
って送って下さい」

右！左！真っ直ぐ！と。

「着きましたありがとう」その時 私は病院の骨髄移植
で無菌室に入っていました。完璧なひろみさんが道に
迷ってしまうところが可愛いくてたまりませんでした。

沢山のおもいでをありがとう。私があの世界に行
ったときはナビして下さいね。 ミニオンより



Photo by ミニオン



今年 5 月

練馬区光が丘四季の香ローズ
ガーデンにて、スタッフの夏子
さんと。



「山本ひろみさんとの出会い」 祝福亭福助

パソコンの写真データから山本ひろみさんの笑顔を探しておきましたら、2019年9月14日発行の第3回岡倉天心記念がん哲学外来巣鴨カフェ「桜」のチラシを見つけました。そのフォルダには、同日のカフェに集う23名の笑顔の写真も残っていました。昔、若かった皆さんは覚えておられると思いますが、NHKを経てフリーのアナウンサーとして活躍された八木治郎氏が担当した『人に歴史あり』（東京12チャンネル）の番組は、1968年から13年も続きました。八木氏は毎回テーマソングに合わせて「人の世の潮騒の中に生まれて、去り行く時の流れにも消しえぬ一筋の足跡がある」とナレーションで語っていた事を思い出し、山本ひろみさんの愛情深い足跡を即席で振り返りたいと思います。

1年ほど前になりますが、山本ひろみさんが、ある患者さんのサポートで松戸市内に来られた際、喫茶店で約20分ほど交流の時間を頂きました。山本ひろみさんご自身が厳しい闘病中にも関わらず、辛い思いをされているがん患者さんやご家族に対し、純粋に、そして真に心から寄り添われている事を具体的に知り得て、改めて感動を与えられました。人の世の自己中心的行動による潮騒・喧騒の中にあって、ひろみさん達の活動は去り行く時の流れの中で、人間にとって、とても重要な足跡を残されたと確信しております。



近年、千葉県内で8か所の新設されたがん哲学カフェの代表やスタッフは、目白がん哲学外来カフェと岡倉天心記念がん哲学外来巣鴨カフェ「桜」に参加され、がん哲学カフェの素晴らしさを体験されています。

ひろみさん、これまでのご厚情、本当に有り難うございました。天国での再会を楽しみにしています。

編集後記 うらちゃん

令和5年10月18日巣鴨カフェ「桜」代表山本ひろみさんが旅立たれました。その5日前巣鴨カフェ前日、ひろみさんはスタッフにLINEで指示を出していました。カフェ事前準備は、胸からは動かない状態だったのに、縫物、パソコン操作等、(大沼さん橋本さんご主人の多大なご支援のもと)ひろみさんがやってくれました。当日カフェ終了頃、巣鴨教会にいたご主人にひろみさんから電話がありました。しかし、強いお菓のせい言葉にはならないようでした。

10月23日お花いっぱい告別式、私は話したかったこと、感謝、あちらへ行ったら父によるしく等々をしたため、お柩に入れさせて頂きました。いま、ひろみさんから頂いた有形無形のもの全てが、日ごとに存在感を増しています。心よりお礼を申し上げます。またあちらで会いましょう。



Photo by 山本保男

ひろみさんのことをいつも応援してくださっている九州のけい姉ちゃんといらさんから、さくら色の供花が届いたそうです。美しいです。



ありがとう



Kuu-空

死が怖い。
誰からも忘れさられ、
物体が無くなり完全に無になる事を想像すると怖い。
19歳になる次男がいう。

大丈夫よ。あなたの事は、
ママが絶対に忘れないから。

ママは、死ぬの怖くないの？

そうね、今は怖くないわね。

大切な人や大切な事は、
ちゃんと心の中にもっているから。

たとえ体がなくなっても、
怖くはないし、寂しくないのよ。

誰かの記憶に残ることよりも、
自分の記憶に残ることを大切にしたいわ。

それは、いつまでも
何処へでももっていけるからね。

生きた証が欲しい。次男はいう。

そうね、生きた証は 世に残すのではなく
私の記憶に刻むことだと
ママは思うよ。

精一杯生き抜く。
今は、まだまだその途中。

kuu-空さんがなさっているお菓子工房のレモンケーキ。家族用と友人用にネットから購入しました。酸っぱくて甘くてパターの控え目なコクがあって。一瞬で幸せな時間になりました。



Photo by 浦川慶子

岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」
sugamocafe.sakura@gmail.com
<https://sugamo-sakura.com/>
後援：一般社団法人がん哲学外来

編集 浦川慶子